

「どう実施する？職業能力開発講習」を開催しました

～参加型の訓練の効果と実施について～

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構香川支部
求職者支援課

1. はじめに

平成29年6月12日に公的職業訓練の実施機関向けの講座を開催しました。

職業能力開発講習ではビジネスヒューマンなど、受講者の主体的な考え方と話し合い（コミュニケーション）を重視した研修スタイルが求められます。

相手の立場に立ったコミュニケーションは、頭では理解していても実践ではなかなか難しいと感じている方も多いのではないのでしょうか。

職業訓練では、こうした問題に対応できるよう講師と受講者、また、受講者間において相互に刺激し合い、教え合う「雰囲気」を早期に創ることが大切です。

職業能力開発講習では次の3つの目標を設けています。①今後のキャリア目標（キャリアの方向性）を設定できる②働くことの意欲と見通し（自己効力感）を持てる③より納得のいく就職（就職先の選択肢を増やす）を目指すことができる

これらの目標を達成するためには個別の目標を明確にし、他の人と共有しながら相互に刺激し合う仕組みが必要となります。



○職業能力開発講習実施の背景と意義の解説

2. 参加型の教育訓練を考える

一方向からの講義より参加者が相互に話し合うスタイルのほうが学習者の学びの質が高まると考えられます。参加者が主体的に生き活きと学び合い教え合うという経験は仕事の中で様々な問題解決をする際に役立つことでしょう。

教育訓練において、こうした経験を得るために気づきを得やすい課題をしっかりと吟味しておく準備が大切です。

本講座ではグループワークを通じて参加者同士でこれまで実践してきたノウハウについて情報交換をしつつ、モデルカリキュラムの企画体験を行いました。

3. 参加型の演習課題について

参加型訓練に用いる演習課題は目的に対応した目標をスモールステップに応じて設定するなど、受講者が段階的に理解を進められるように工夫することも大切です。

また、課題は作業量が多くなりすぎないように、時間配分を見ながら適切な分量に調整します。

話し合いをした後は必ずフィードバックを行います。講師（ファシリテータ）は時間管理と議論の雰囲気をしながら、参加者が主体的に演習に関わっていることを関心をもって見守っていくことが重要です。

4. 今後に向けて

日常の雑談が信頼関係構築に有効であり、訓練の受講期間においても気軽に話ができる関係性を作り育てることも訓練実施機関として気を配ることも大切な仕事になります。

また、人との関わり方における基本的な構えについても解説しました。

本日、紹介した教育訓練手法が職業訓練の質の向上に役立てていただければ幸いです。



○参加型訓練の課題企画演習風景

(香川支部 求職者支援課記 2017.6.13)